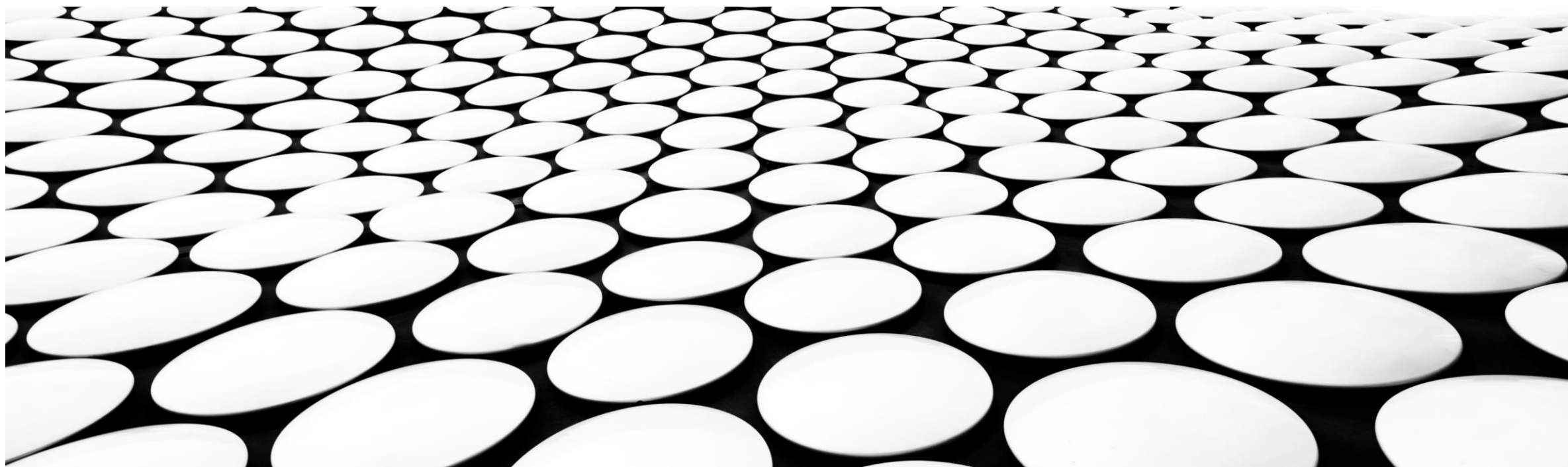

ベトナムの発展と歩み

180781170 浅川 昂輝



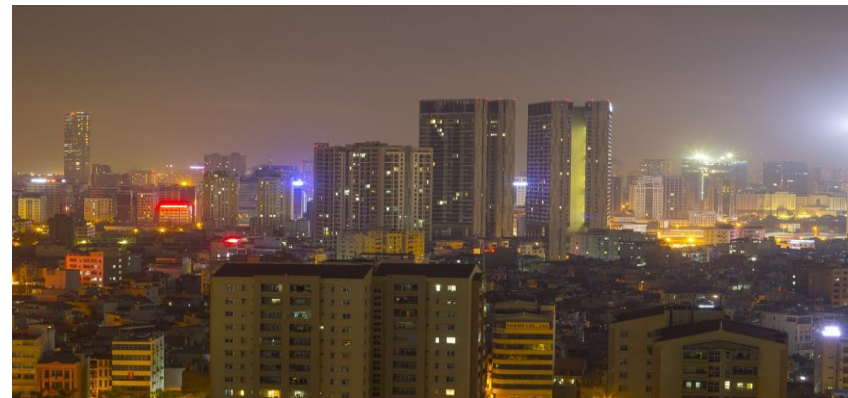
はじめに



戦争



ASEAN



ハノイ



電子機器産業

第一章 第二次世界大戦までのベトナム



①ベトナムの概要と社会文化

正式名称：ベトナム社会主義共和国

面積：32万9,241平方キロメートル

人口：約9,762万人

首都：ハノイ

気候：熱帯（地域差大）

民族：多民族国家（54の民族）

宗教：仏教、カトリックを信仰



② フランス植民地下のベトナム

◎ 1858年、フランスのベトナム侵略開始

Q. それによる変化とは？

1. ベトナムの公式文字体系がクオックグーに変化
2. 経済構造の再編

北部
石炭、錫

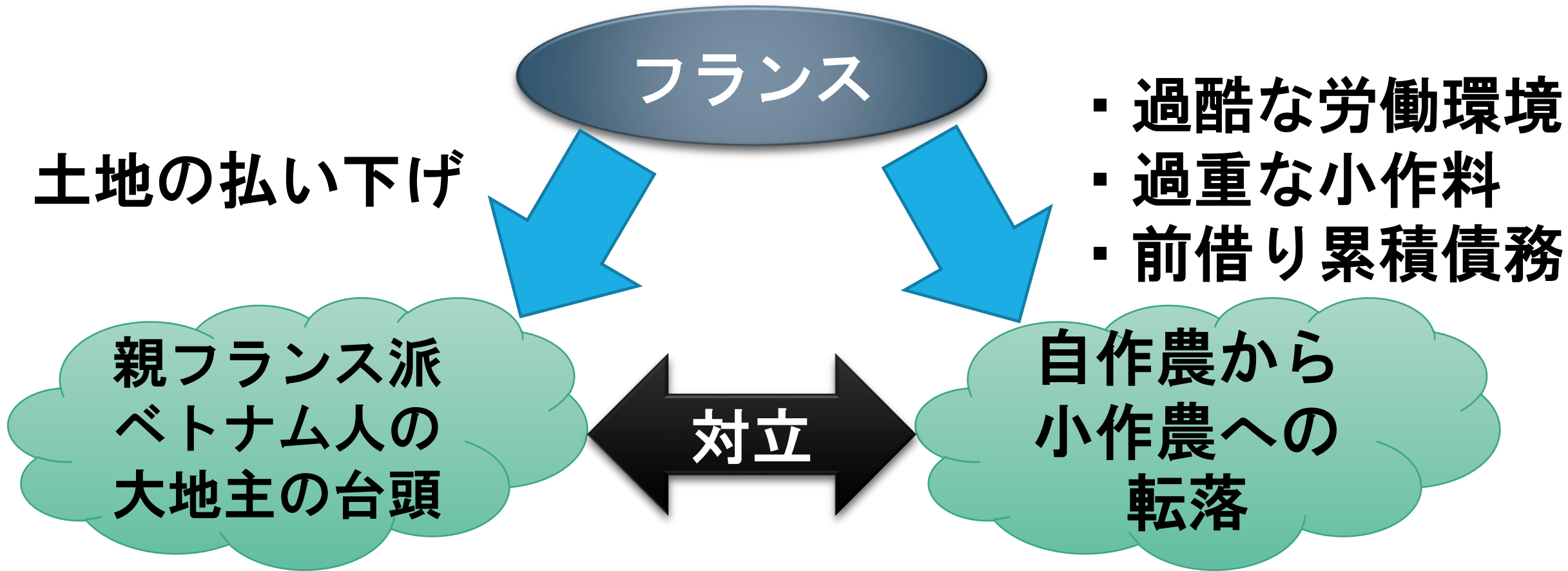
高地
コーヒー、ゴム

南部
輸出米生産

モノカルチャー経済の構築

3. 社会構造の変化

フランス直轄植民地として都市の開発



⇒秘密結社や独立運動が増加⇒第二次世界大戦へ

③ 日本^の植民地支配

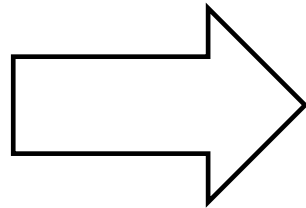
1940年、日本がインドシナ連邦北部に進駐
(フランスとの共同統治)

目的：①「援蔣ルート」の閉鎖

②東南アジア侵攻の「橋頭堡」を確保

翌41年7月、インドシナ連邦南部に進駐

東南アジアの
軍事拠点強化



日米関係悪化

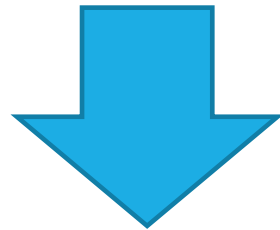
第二次世界大戦

日本
ドイツ
イタリア

VS

アメリカ
フランス
イギリス

日本の戦況が不利に、、、
⇒フランスが反旗？

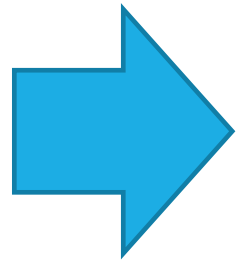


1945年3月、クーデターを決行
⇒フランスからの独立（実権は日本軍）

◎大飢饉の発生

原因①日仏両軍によるコメの強制調達

原因②紅河で大洪水の発生



最終的に200万人の死者
反日・反仏への抵抗の高まり

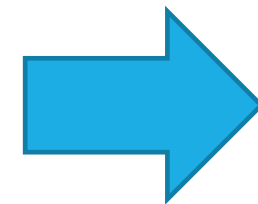
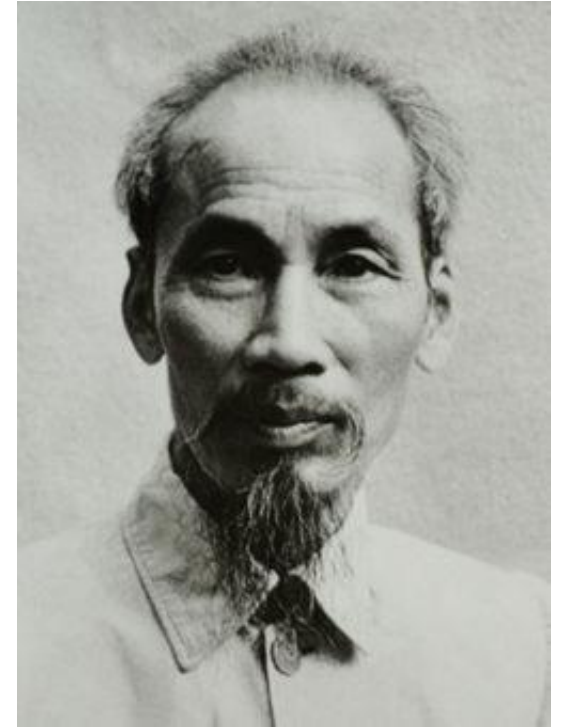
1945年8月15日

日本：ポツダム宣言受け入れ

ベトナム：反日・反仏抗争を展開

⇒ホー・チ・ミンによって

ベトナム民衆共和国臨時政府を設立

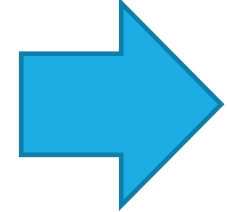


独立

第二章 ベトナム戦争

① 再度のフランス支配とインドシナ戦争

ベトナム民衆共和国の独立が宣言
⇒ フランスは支配権の保持継続



第一次インドシナ戦争 開戦

ベトナムの勝利

ベトナムの勝因

勝因① 隣接する国の軍事的支援

勝因② 戦争の長期化によるフランス世論の変化

②南北対立と米国の軍事介入

◎ジュネーブ協定（1954年6月）

北緯17度線を軍事境界線

2年後にベトナム全域で総選挙を実施

しかし、アメリカの後押しによって、

南部ベトナム共和国が成立（1955年10月）

⇒「北」と「南」の対立  **ベトナム戦争へ**

◎アメリカ軍の撤退を経て、「北」ベトナム側の勝利

勝因①ベトナムの地形でのゲリラ戦

勝因②アメリカ国民の戦意の喪失



③南ベトナム崩壊と戦後

北ベトナムにおけるサイゴン解放（1975年4月）
⇒ 「**ベトナム社会主義共和国**」として統一

◎戦後のベトナム

人体に与えた傷

南北格差

都市に与えた傷

第三章 ドイモイ政策

① 社会主義から、資本主義へ

外交問題

飢餓

急激な社会主義改造により、問題が、

生産意欲低下

政治腐敗

1986年12月の党大会

「**ドイモイ**」の導入

政策の方向転換

- ① 長期的な生産力の向上
- ② 農業への投資の切り替え
- ③ 資本主義的経営、個人営業、の許可
- ④ 積極的な国際社会への協力、外交

②ASEANとベトナム経済

ASEAN：東南アジア諸国連合

対米貿易関係の改善

WTO加盟

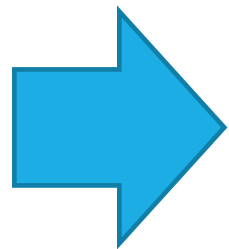
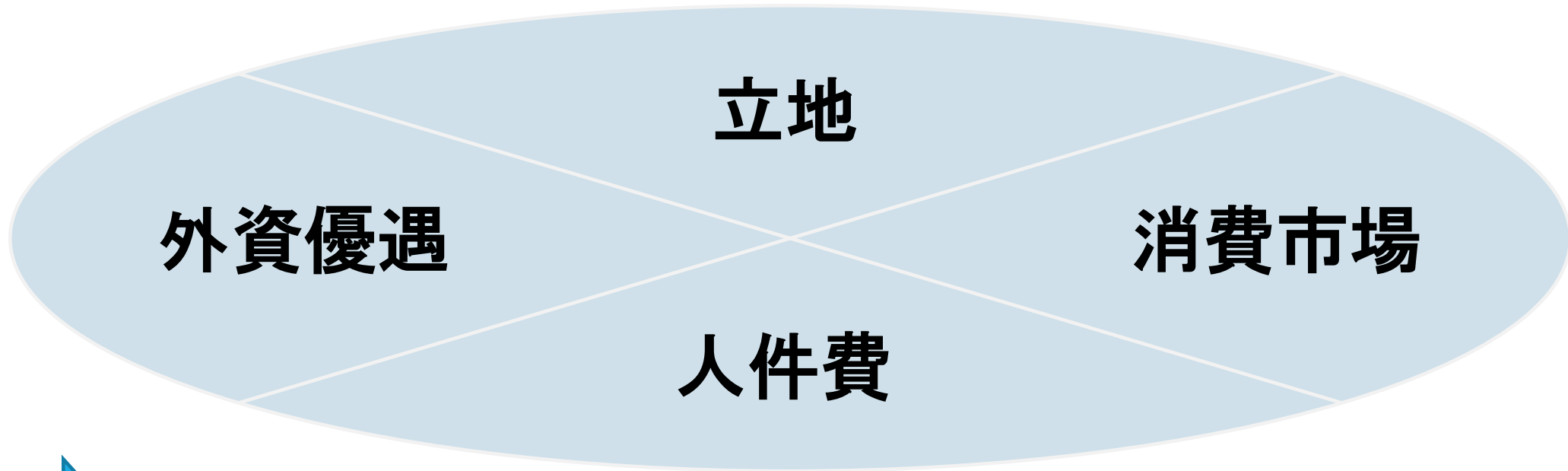
FTA・TPPへの参加

サムスンから
大型投資

③外資系企業の進出

LG電子、サムスン電子の韓国企業が進出

Q.ベトナムの生産拠点としての魅力は？



対ASEAN投資の約4割をベトナムに投資

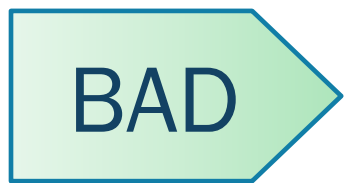
第四章 今日のベトナム

①近年のベトナム経済

交通インフラ・海上物流拠点の整備



高い経済成長（実質GDP成長率：約7.0%）
国民の消費意欲が増加



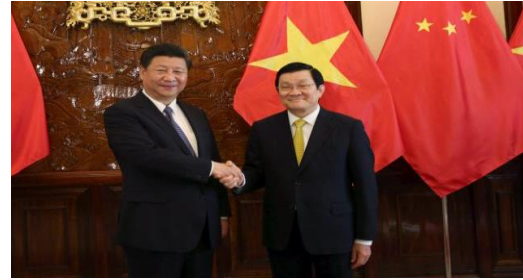
高インフレ 貿易赤字の拡大
自国通貨安



インフレ抑制と経済成長の両立

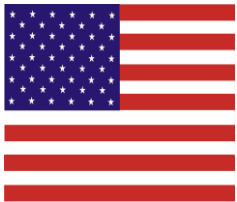
②諸外国との外交関係

ベトナムは「**全方位外交**」

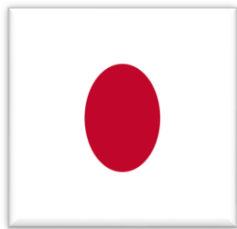


- ・最大の輸入相手国
- ・貿易赤字の要因

米中対立



- ・最大の輸入相手国
- ・更なる輸出拡大のため
アメリカとの外交が重要



「日越共同イニシアティブ」
⇒経済だけでなく幅広い分野での協力

両国との
バランスを保った
外交が大切！

③ベトナムの中長期的な発展

さらなる発展のための2つの課題

1. 新たな制度への改革

a. 資本や土地の有効活用

b. 工業部門の成長

2. 外資系部門と国内企業部門の2重構造を是正

a. 外資系企業と国内企業の連携強化

b. 外資に依存の減少

終章 今後の展望

Q.ベトナムはこれからどうなっていくのか？

1. 高度成長の実現

a.諸外国との協力で製造業の技術向上

⇒海外からの直接投資の増加⇒経済成長

2. 「ベトナム離れ」

a.コロナ禍による工場の稼働停止

⇒生産拠点としての魅力の減少

私は、「1. 高度成長の実現」を支持